

News Letter

自治医科大学地域医療オープンラボ

Vol.41, Jan, 2011

地域医療再生プロジェクト部門について

自治医科大学 地域医療学センター 特命准教授(地域医療再生プロジェクト部門 部門長)、筑西市民病院 総合診療科 部長
熊田 真樹 (鳥取県 14期)

◆初めに

地域医療再生プロジェクト部門は、茨城県西部の地域医療再生計画により、平成 22 年 4 月に自治医科大学地域医療学センター内に設立された寄附講座です。理想的な地域医療のモデルを構築することを最終的な目標として、地域をフィールドとした活動を通じて、単なる医師派遣による診療だけに留まらない大学部門としての活動を行うこと狙いとしています。



◇部門の拠点から見る今日の医療事情

部門の活動の拠点としているのは茨城県筑西市です。人口約 10 万人の都市で、自治医科大学のある栃木県の隣県ですが、実は大学からわずか 20km 足らずの距離にあります。近隣の市町をあわせて約 20 万人の二次医療圏が形成されており、医療圏内にある公立病院の一つである筑西市民病院は、新臨床研修等を誘因とする常勤医師の減少に伴い、病床の削減や休日救急対応の制限等により地域住民への影響が出ています。その結果近隣医療圏への患者流出が顕著となり、特に自治医科大学等の高次医療機関への軽症患者の受診が問題になっています。

自治医科大学はへき地医療の改善を目的として設立された大学ですが、最近ではこのような中小規模の都市部での医療構造の問題が顕在化し、メディアで大きく取り上げられることが多くなってきています。

◇地域医療再生プロジェクト部門の活動方針

地域医療再生プロジェクト部門では、活動を診療、教育、研究、発信・啓発の 4 つの柱に分けて展開しています。

- 診療

医療の高度化専門化が進む今日、一人ひとりの医師が担う医療の範囲はどんどん狭くなる一方、地方の診療所や病院では、一人の医師がカバーする医療は広範囲にわたり、場合によっては一般内科・小児科に限らず簡単な外傷手術や骨折の処置等までこなされる人もいるでしょう。更には地域の医療連携や地域包括ケアを管理することもあり、地域のニーズに合わせて柔軟に対応している医師はすでに総合医的機能を持っていると言えます。地域の規模に関わらず、プライマリから高度専門医療までアクセスが確保されるべきなのは言うまでもありませんが、特に中小規模の医療圏においては、医療の需給バランスを鑑み、専門性の高い医療はより広範囲な医療圏のもとで適切に供給維持出来る体制を計画的に作り上げる必要があると思います。それを踏まえて、地域の医療を様々なレベルの医療機関と連携しながら構築する上で、総合医は必要な存在であると考えています。部門のスタッフは総合診療科・総合医として市内の病院に勤務することで、そうした幅広い視点からの活動を通じて地域に働きかけています。

- 研究

筑西市をフィールドとした種々の研究調査活動を計画しています。医療の流れをテーマとした研究や、啓発や教育等部門の活動に絡めた研究も行っていきたいと考えています。以下にいくつかのテーマを挙げます。

総合医の役割、及び医療の流れに関する研究

総合医は幅広い健康問題に対応出来ることが求められていますが、実際には総合医の診療範囲について明確な定義は有りません。地域で実際に起きている健康問題を網羅的に調査することで、プライマリ・ケア、総合診療の範囲を少しでも明確に出来ると考えます。

地域の救急体制に関する調査研究

筑西市における平成12年から5年間の心筋梗塞の死亡率は全国に比較して男女ともに2倍前後であると報告されています。筑西医療圏には心筋梗塞の急性期治療が出来る高次医療機関が存在せず、それが高い死亡率の原因の一つと考えられていますが、死亡数の調査だけでは詳細な要因を明らかにすることは出来ません。適切で効果的な対応策を見出す事を目標として、地域における各種リスク疾患の頻度や受療状況、救急搬送事例の詳細な検討や複数の地域をまたいだ症例の流れ等を調査開始しました。

- 教育

若い医師が地域で働くことに意義を見出すことが出来るためにも、教育研修の機会は重要と考えます。大学病院と異なり、地域の病院ではプライマリから患者と接する事が出来るため、疾患の最初から最後までを体験することが可能です。地域と病院との関わりを意識しながら医療を行うことを自然に身につけることを目標として、指導教育出来る体制作りを進めています。

- 発信・啓発

地域医療の問題の多くは社会資源として考えるべき問題が多く、そうした視点を地域住民が持ち、医療者、行政とともに地域医療作りのプレイヤーとして参加することが重要です。地域医療学教室では様々な手法を用いて地域住民への地域医療への関心を高めるための啓発活動が行われており、筑西地区でも協力して展開していくことを計画しています。

◆最後に

地域医療再生プロジェクト部門は活動を始めて一年が経とうとしています。まずは診療をしっかりとこなして地域に認められることからスタートし、次いで病院内にとどまらず、地域医療の流れの現状を把握するための様々な調査を開始しました。今後そこから課題を抽出し、その解決の手法を見出し、実践する事で地域に還元することを目指しています。大げさに書きましたが、このプロセスは今まで卒業生の皆様が地域で実践してきたことそのものでもあり、私達はいわば後追いしている状態であるとも言えます。しかしまさにそうした点で、医師が地域で過ごした経験そのものを活かすことが出来る珍しい部門であるとも言えます。

本部門は現在スタッフを募集中です。地域医療に問題意識を持ち、提案したい人、地域で能力を発揮しながら研究したり大学でも学びたい人、教える事が好きな人の参加をいつでもお待ちしております。大学の部門でもありながら、地域医療現場をフィールドとして活躍出来る、いわば一粒で二度美味しい本部門にご興味がある方はぜひご連絡ください。

自治医科大学地域医療学センター
地域医療再生プロジェクト部門
熊田真樹 kuman@jichi.ac.jp

【発行】自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープン・ラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>